

「学びの共同体」理論による授業内容について

校長 松村 一人

令和4年度9月より、本校を含む神根地区のすべての小中学校（3校の中学校、6校の小学校）では、「学びの共同体」理論による授業実践を積み重ねています。教室内では、生徒全体が黒板に向かって学習する一斉授業スタイルから、4人グループの学習活動（教科によっては4人ではないグループ活動もあります）を中心とする授業スタイルに変換してきています。

「学びの共同体」理論に基づく授業は、以下に示すような特色があります。

1 学習形態

一斉授業スタイルからグループ学習（4人グループを原則）活動形態中心へ

2 課題発見・解決に向けた生徒主体の学習スタイル

学びの成果（解答、結論等）のみでなく、それを導き出す一人一人の生徒の主体的な学習過程《探究》を大切にする授業展開をとります。教師は生徒主体の授業を支えるコーディネーターとしての役割を担います。

3 ジャンプ課題の設定

「学びの共同体」理論では、授業課題として《共有の課題》と《ジャンプ課題》を提示します。共有の課題は、基本的な教科書の内容を踏まえて、一人一人の生徒が基礎的な知識・技能として、習得しなければならない内容の課題です。これに対して、ジャンプ課題とは、教科書レベルをはるかに超えて、その課題解決のためには深い思考を要する課題を意味します。

このジャンプ課題解決に向けた協同的な学習活動を通して、生徒の「学び合い」が深まり、思考力・判断力・表現力が磨かれていきます。

4 「わからない」「できない」を分ち合える学習集団の育成

一人一人の生徒の「わからない」「できない」というつぶやきに耳を傾け、共に学び合うことを通して、課題解決に向かう学習集団の醸成を目指します。生徒一人一人が「夢中になる学び」を提供し、「学びの楽しさ、深さ」を味わわせる授業実践を積み重ねてまいります。

今年度、本校では、学校課題研究テーマを「学びの共同体創生に向けて—ジャンプ課題を取入れた授業デザインの工夫」とし、学校一丸となって、この計画・実践・検証に努めてまいります。